



## サルコペニア新規治療法の開発

浪崎 正

Tadashi Namisaki

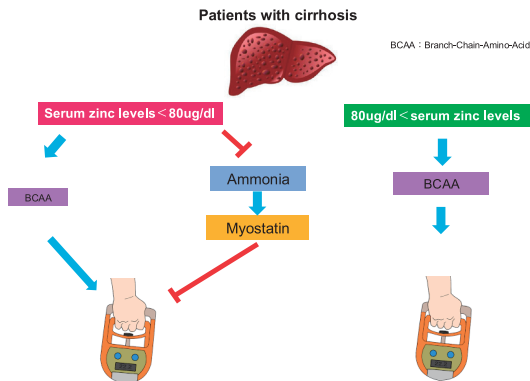
消化器内科学  
肝疾患相談センター／准教授

臨床

- **キーワード** アルコール性肝硬変、亜鉛
- **対象疾患** サルコペニア
- **研究フェーズ** 探索フェーズ
- **モダリティ** 医療機器開発

### シーズ概要

C2C12 細胞では筋分化に伴って Zip13 遺伝子の発現が上昇し、Zip13 遺伝子をノックダウンさせると、筋分化が抑制されました。さらに、患者由来の iPS 細胞に骨格筋へ分化させる刺激を与えると、骨格筋分化に必要な筋分化制御因子である MyoD と Myogenin の発現が正常細胞に比べて顕著に低下していることが判明し、それらの発現低下は ZIP13 の遺伝子変異を修復することで回復する。



### 研究成果の応用可能性

サルコペニアの新規治療薬として使用できる可能性を期待する。

### Appeal Point

アピールポイント

運動療法と既存薬剤の組み合わせによるサルコペニア新規治療法の開発

### 関連文献／特許

1. Murata et al Clinical Significance of Serum Zinc Levels on the Development of Sarcopenia in Cirrhotic Patients Cancer Diagn Progn. 2022 Mar 3;2(2):184-193. doi:10.21873/cdp.10093.